

令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立母衣小学校)

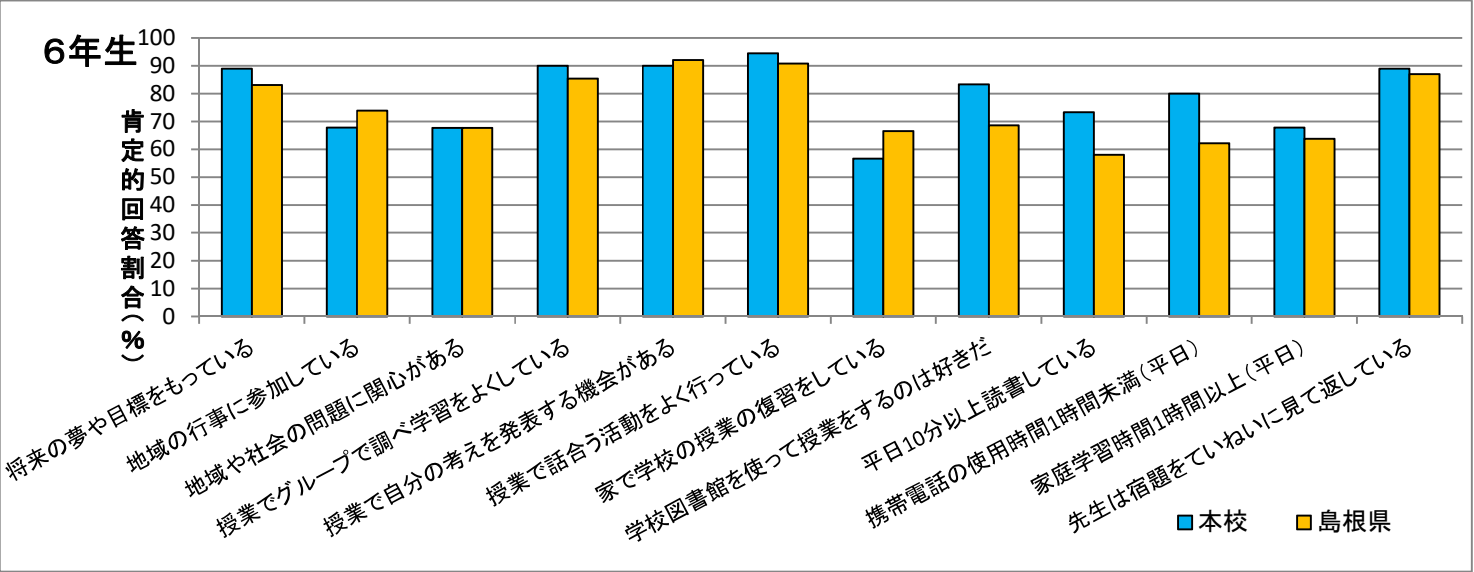
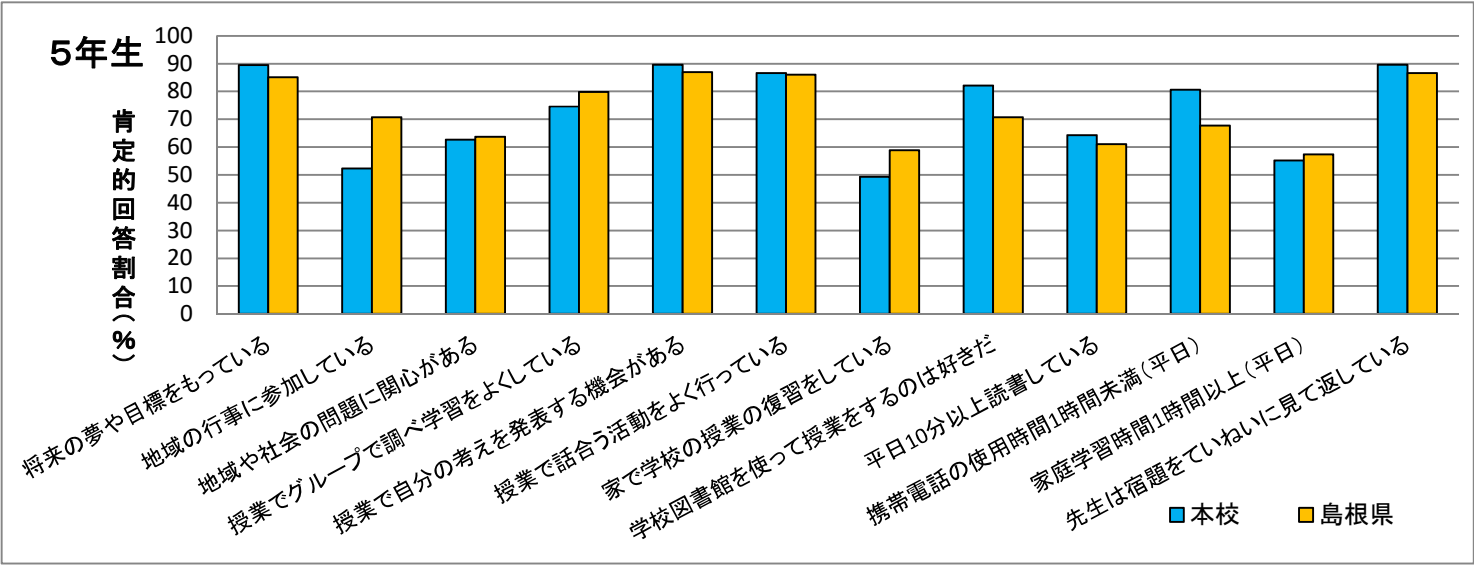
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○漢字の読みも、ローマ字も県平均より大きく上回った。 ○登場人物の心情を捉える、目的に応じて複数の文章を比べて読む問題が県平均を大きく上回った。 ●主述の関係にある語を選ぶ問題は県平均を少し下回った。 ●表現を工夫して書く、目的に応じて書くは県平均より少し低かった。	・引き続き、書き取り会、ローマ字会は続ける。 ・同音異義語については辞書を引いたり漢字の意味を考えたりする習慣を付ける。 ・視写を取り入れたり、文法に関する問題を解いたりする機会を増やすことで弱みの対策をする。
	算数	○異分分数の加減、直方体の体積、台形の特徴、数量関係の個数、どれも県平均を大きく上回った。 ●小数の乗法の計算がかなり低かった。小数の加減計算についても良くない。 ●直方体の展開図、平行四辺形の性質など、立方体の学習に難がある。	・立体にふれる機会を作るなど、体験的な学習を取り入れる。 ・数の構成についての理解の定着を図る。 ・線分図、関係図、数量関係を体得させる。 ・積極的に、小数を含む計算を計算会等で取り入れる。
6年	国語	○すべての設問で県平均を上回っている。 ○特にローマ字が県平均を大きく上回っている。 ○漢字の書きについては、同音異義の漢字について、文の中で正しい意味をとらえて使うことができる。 ●二極化が見られる。	・調べたことや読み取ったことを整理し、自分の考えを書いたりお互いに伝え合ったりする学習をさらに増やしていく。 ・漢字の意味を理解し、文章の中で正しく書けるように引き続き、指導していく。
	算数	○基礎的な計算問題は解くことができる。 ○図形領域の問題の正答率が高い。 ●「速さ」「単位量あたりの大きさ」「比」について個人差が見られる。 ●小数倍の意味について課題が見られる。	・日常生活に照らし合わせて考えたり、体感したりする機会を増やす。 ・図で適切に表す活動や、かかれた図から関係を読み取る活動を取り入れる。

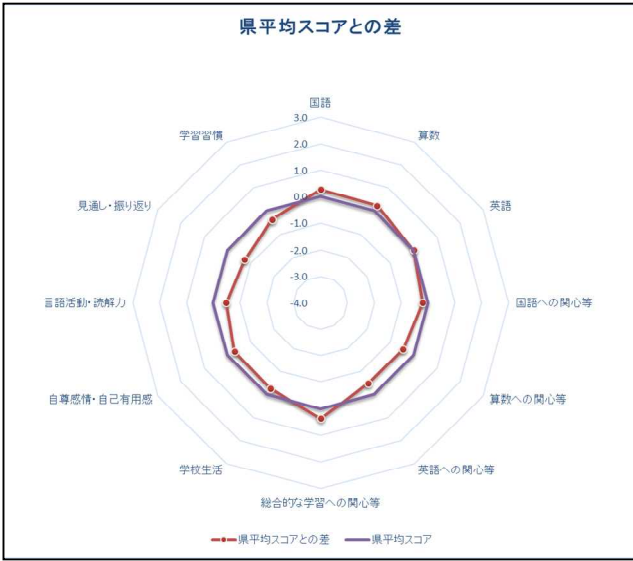
(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○将来の夢や目標を持っている。 ○授業で自分の意見を発表する機会がある。 ○図書館を利用して学習するのが好き。 ●家庭学習が不十分である。 ●授業でグループでの学習をあまりしていないと児童は思っている。	・「復習」ということを意識させて課題を与える。 ・復習するという目的意識をもたせて、家庭学習に取り組ませる。 ・グループ学習をしているという意識をもたせて活動させる。
	家庭学習に関わる事項	●計画的に学習している子が少ない。 ●自分から進んで家庭学習をしていない。	・復習するという目的意識をもたせて、家庭学習に取り組ませる。 ・家庭学習の時間が確保できるように、家庭との連携を図る。
6年	授業改善に関わる事項	○関心意欲をもって、授業に取り組み、課題を解決することができている。 ●振り返りの活動が十分に行われていないという意識である。	・振り返る活動を意識させて確保し、その時間内での理解と定着を図るようにする。
	家庭学習に関わる事項	○予習をしてくる児童の割合が県平均よりも高い。 ●全体として予習に取り組む児童は増えてきたが、自分で計画を立てて勉強する児童の割合は、県平均を下回っている。	・引き続き、テストの予定を早めに知らせ、自学などに計画的に取り組ませるようにする。

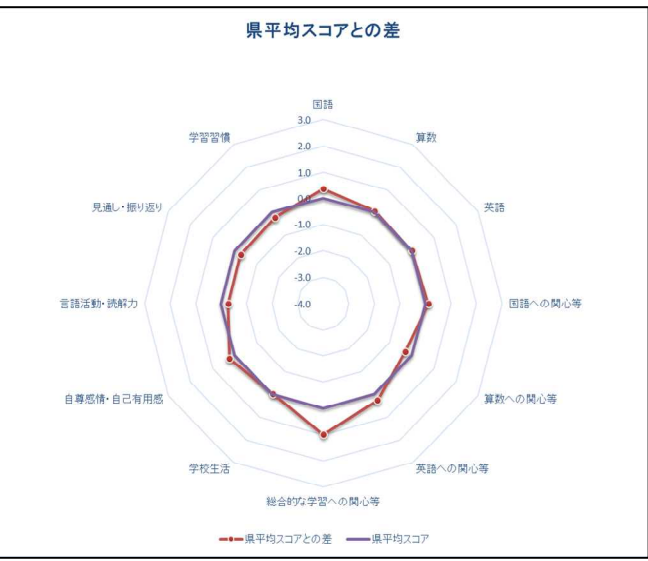
(4) 生活・学習に関する意識調査の結果



(2) 各学年・各教科の調査結果チャート
5年



6年



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	64	63
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数
5年生 66 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	58	59
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数
6年生 90 人